

# 鶴岡調査データベース解説

ver.1.0

国立国語研究所

2017年4月26日

# 鶴岡調査データベース解説

ver.1.0

## 目次

<b>第1部 データの概要</b> .....	<b>4</b>
1. 鶴岡調査データベース VER.1.0 について.....	4
2. 調査データ.....	5
3. 調査項目.....	6
4. データ件数.....	8
5. データベース作成の方針.....	9
5. 鶴岡調査の組織.....	11
<b>第2部 コードブック</b> .....	<b>12</b>
1. コードブックの構成.....	12
2. 基礎項目（フェイスシート項目）.....	12
被調査者 No.....	12
調査次.....	12
性別.....	13
生年.....	13
調査時の年齢.....	13
年代.....	13
言語形成地.....	14
言語形成地コード.....	14
言語形成期の鶴岡居住年数.....	14
言語形成期の山形県居住年数.....	15
職業.....	15
学歴.....	16
父親の出身地.....	17
母親の出身地.....	17
配偶者の出身地.....	17
3. 音声・音韻項目.....	18
201. クチ（口；有声性）.....	18
202. ヒゲ（髭；唇音性Ⅱ）.....	19
203. セナカ（背中；口蓋性）.....	19
203a. セナカ（背中；アクセント）.....	20
204. アセ（汗；口蓋性）.....	20
205. ハチ（蜂；有声性）.....	21
206. ハト（鳩；有声性）.....	21
207. ネコ（猫；有声性）.....	22

207a. ネコ (猫 ; アクセント)	22
208. ヘビ (蛇 ; 唇音性Ⅱ)	23
209. マド (窓 ; 鼻音性)	23
210. ハタ (旗 ; 有声性)	24
210a. ハタ (旗 ; アクセント)	24
211. スズ (鈴 ; 鼻音性)	25
212. オビ (帯 ; 鼻音性)	25
213. クツ (靴 ; 有声性)	26
214. カキ (柿 ; 有声性)	26
215. マツ (松 ; 有声性)	27
216. スイカ (西瓜 ; 唇音性Ⅰ)	27
217. カヨウビ (火曜日 ; 唇音性Ⅰ)	28
218. ヒャク (百 ; 唇音性Ⅱ)	28
219. ゼイムシヨ (税務署 ; 口蓋性)	29
220. イキ (息 ; イとエⅡ)	29
221. エキ (駅 ; イとエⅠ)	30
222. イト (糸 ; イとエⅡ)	30
223. エントツ (煙突 ; イとエⅠ)	31
224. チジ (知事 ; 中舌音Ⅱ)	31
225. チズ (地図 ; 中舌音Ⅰ)	32
226. シマ (島 ; 中舌音Ⅱ)	32
227. スミ (墨 ; 中舌音Ⅰ)	33
228. カラス (鳥 ; 中舌音Ⅰ)	33
228a. カラス (鳥 ; アクセント)	34
229. カラシ (辛子 ; 中舌音Ⅱ)	34
230. キツネ (狐 ; 中舌音Ⅰ)	35
231. ウチワ (団扇 ; 中舌音Ⅱ)	35
231a. ウチワ (団扇 ; アクセント)	36
4. 言語生活項目 (場面による使い分け意識)	37
C1. 家の中のことば	37
C2. 近所の顔見知りとのことば	38
C3. 鶴岡で顔見知りでない人とのことば	39
C4. 旅の人とのことば	40

# 第1部 データの概要

## 1. 鶴岡調査データベース ver.1.0 について

鶴岡調査データベース ver.1.0は、国立国語研究所共同研究プロジェクト（基幹型）「文字環境のモデル化と社会言語科学への応用」（プロジェクトリーダー：横山詔一，2009年10月～2016年3月）及び「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」（プロジェクトリーダー：井上史雄，2012年4月～2016年3月）において、整備・公開したものである。

データ整備とコードブックの執筆は主に阿部貴人（現専修大学准教授，元国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員）が担当し，最終段階のとりまとめを高田智和と鎌水兼貴が行った。

本データベースを利用して研究を行った場合は，クレジットとして，

著作者： 国立国語研究所

データベース名： 鶴岡調査データベース ver.1.0

ダウンロードサイト： <http://www2.ninjal.ac.jp/longitudinal/>

の情報を記載してくださるようお願いする（国立国語研究所のサイト改変により，アドレスが変更になった場合は，適宜変更されたい）。

鶴岡調査データベース ver.1.0は，Microsoft Excel形式（xlsx）で配布する。

tsuruoka-database-1.0.xlsx

以下に，本データベースについて，調査データ，調査項目，データ件数の3点から説明を加える。

## 2. 調査データ

第1回～第3回調査で実施した調査のうち、面接式の調査データ（ランダムサンプルの回答データ）を鶴岡調査データベース ver.1.0に収める。

表 1-1 調査の名称とデータベースに収める調査

	第1回調査 (1950年)	第2回調査 (1971年)	第3回調査 (1991年)
面接式調査	共通語の調査	名称なし	面接調査
留め置き式調査	—	—	言語生活調査
関連調査	24時間調査		
	パーソナリティの調査		場面差調査
	マス・コミュニケーションの調査		
	学校における共通語指導状態の調査		方言記述調査
	鶴岡方言の観察（記述）調査		

質問項目の質問番号は、各調査で一致しない。また、選択肢の内容にも違いがある。第2部「コードブック」は、それらが確認できるように作成してある。

### 3. 調査項目

鶴岡調査データベース ver.1.0には、第1回～第3回調査のいずれでも実施した、音声・音韻の31項目の回答データを収める。その31項目のうち5項目は、アクセントについても調べているから、合計で36項目の回答を収めていることになる。以下に36項目を掲げる。なお、本データベースの質問番号を〔 〕で示す。

- (1) 唇音性Ⅰ（合拗音 kwa の有無を見る項目）
  - 西瓜（すいか）の「か」〔216〕
  - 火曜日（かようび）の「か」〔217〕
- (2) 唇音性Ⅱ（ハ行における両唇音の有無を見る項目）
  - 髭（ひげ）の「ひ」〔202〕
  - 蛇（へび）の「へ」〔208〕
  - 百（ひゃく）の「ひゃ」〔218〕
- (3) 口蓋性（「せ」「ぜ」における口蓋化の有無を見る項目）
  - 背中（せなか）の「せ」〔203〕
  - 汗（あせ）の「せ」〔204〕
  - 税務署（ぜいむしょ）の「ぜ」〔219〕
- (4) 有声性（非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無を見る項目）
  - 口（くち）の「ち」〔201〕
  - 蜂（はち）の「ち」〔205〕
  - 鳩（はと）の「と」〔206〕
  - 猫（ねこ）の「こ」〔207〕
  - 旗（はた）の「た」〔210〕
  - 靴（くつ）の「つ」〔213〕
  - 柿（かき）の「き」〔214〕
  - 松（まつ）の「つ」〔215〕
- (5) 鼻音性（非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無を見る項目）
  - 窓（まど）の「ど」〔209〕
  - 鈴（すず）の「ず」〔211〕
  - 帯（おび）の「び」〔212〕
- (6) 中舌音Ⅰ（ウ段音における中舌化の有無を見る項目）
  - 地図（ちず）の「ず」〔225〕
  - 墨（すみ）の「す」〔227〕
  - 鳥（からす）の「す」〔228〕
  - 狐（きつね）の「つ」〔230〕
- (7) 中舌音Ⅱ（イ段音における中舌化の有無を見る項目）
  - 知事（ちじ）の「じ」〔224〕
  - 島（しま）の「し」〔226〕
  - 辛子（からし）の「し」〔229〕

- 団扇（うちわ）の「ち」 [231]
- (8) イとエ I（語頭の母音エにおける狭母音化の有無を見る項目）  
駅（えき）の「え」 [221]  
煙突（えんとつ）の「え」 [223]
- (9) イとエ II（語頭の母音イにおける広母音化の有無を見る項目）  
息（いき）の「い」 [220]  
糸（いと）の「い」 [222]
- (10) アクセント  
背中（せなか） [203a]  
猫（ねこ） [207a]  
旗（はた） [210a]  
烏（からす） [228a]  
団扇（うちわ） [231a]

場面による使い分け意識についての言語生活項目（4項目）も収録した。

- 家の中のことば [C1]
- 近所の顔見知りとのことば [C2]
- 鶴岡で顔見知りでない人とのことば [C3]
- 旅の人とのことば [C4]

被調査者の属性は、以下に掲げる項目を収めている。

- 被調査者 No.
- 調査次
- 性別
- 生年
- 調査時の年齢
- 年代
- 言語形成地
- 言語形成地コード
- 言語形成期の鶴岡居住年数
- 言語形成期の山形県居住年数
- 職業
- 学歴
- 父親の出身地
- 母親の出身地

## 4. データ件数

まず、第1回～第3回調査の各報告書に掲載されている“被調査者数”を表1-2に掲げる。

表1-2 報告書における“被調査者数”

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
“被調査者数”	<b>577</b>	<b>457</b>	<b>405</b>

表1-2の網掛けした部分、すなわち第1回調査のランダムサンプルと、第2回調査のランダムサンプルは、15歳～24歳を2倍している。

第1回調査当時、鶴岡市の人口は、若い世代ほど多い「三角型」の人口ピラミッドで構成されていた。そのまま単純にランダムサンプリングをした場合、若い世代が非常に多く、高年層が極端に少なく抽出されることになる（調査できる数には限りがあるため、予め500サンプル程度をサンプリングすることになっていた）。

そこで、人口の多い15歳～24歳を1/2にしてサンプリングをしたのである。そのことよって、相対的に高年層のサンプルの数を増やすことができた。

このようにして調査完了に至ったわけであるが、実際に調査ができた数をそのまま調査完了数と見なして集計・分析するのでは、サンプリングを実施したことの意味をなさない。なぜなら、サンプリングを実施することの意義は、鶴岡市（正確には鶴岡市の調査対象地区）の代表を選ぶことであり、その被調査者の構成は鶴岡市の人口構成を反映している必要があるからである。

そこで、集計・分析にあたっては、サンプリングの段階で1/2にした15歳～24歳を2倍し、鶴岡市（調査対象地区）の人口構成に合うように操作したのである。以上の事情については、第1回調査の報告書『地域社会の言語生活：鶴岡における実態調査（国立国語研究所報告5）』（国立国語研究所、1953）の36頁～57頁に詳しい。

第2回調査のランダムサンプルについても、同様の操作を実施したわけである。しかし、パネルサンプルについてはそのような操作は実施していない。無論、パネルサンプルの中に15歳～24歳の者がいようはずもないし、また、パネルサンプルを分析する目的は、（鶴岡市の代表を調べて地域社会の共通語化の変化を見ることではなく）個人の変化を見ることにあるからである。

第3回調査では、ランダムサンプル・パネルサンプルともに15歳～24歳を2倍することはしていない。

鶴岡調査データベース ver.1.0は、第1回・第2回調査についても、15歳～24歳を2倍しないデータベースを作成する方針をとった。仮に、それらを2倍する必要がある場合でも、まずは調査完了数（実数）についての回答データがまとまっている必要があると考えたからである。

以上の事情から、今回配布する本データベースのデータ件数（実際に回答した協力者の実数）は表1-3のようになる。

表1-3 鶴岡調査データベース ver. 1.0のデータ件数

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
データ件数	<b>496</b>	<b>401</b>	<b>405</b>

## 5. データベース作成の方針

鶴岡調査データベース ver.1.0 は、以下のような方針によって作成した。

- (1) 調査員が調査票に記した情報をデータベース化する。
- (2) 鶴岡調査の中核的な調査項目である音声・音韻と、方言と共通語の使い分け意識、被調査者の属性を収める。
- (3) 第1回～第3回の3回の調査で継続して調査された項目を中心にデータベース化する。
- (4) 中間的な音（であると調査員が記したもの）は、多少でも方言的特徴が見られる場合は共通語音とは認めず、方言音とする。
- (5) 被調査者の年齢は満年齢で統一し、いわゆる「数え年」は用いない。

(1) はデータベース化の目的に係る方針である。

鶴岡調査では、第1回・第2回調査では録音がなされていない。第1回調査時は録音機が約60キロほどあり、500を超える被調査者宅にそれを持参し、調査することなど、不可能であった。また、第2回調査時は、テープレコーダが普及し始めようとする時期にあり、やはり実査には利用されなかった（1972年の第2回岡崎調査から利用された）。第3回調査では、テープレコーダによって録音がなされている。

録音データがない第1回・第2回調査では、調査員が調査の場で音声を聴き取り、音価を判断して結果を記している。また、録音データのある第3回調査においても、過去の調査と同じように、調査員が調査の場で音価を判断して結果を記録することが多く、調査の後で録音データを確認しながら結果を判断・記録することは稀であった。

したがって、第1回～第3回調査は、調査票への結果の記録の仕方が“共通している”ことになる。無論、記録した調査員は異なるのであるから、厳密には“共通している”わけではない。しかし、ある一定レベルの言語学や調査の訓練を受けた調査員が記した結果であることを鑑み、同質なデータとして扱うことが可能であると判断した。本データベースは、この“共通する”方法によって記録された結果をデータベース化し、3回の調査結果を比較可能とすることを目的に整備する。

なお、第3回調査の録音データ（およびそれを聴き取った結果）をデータベース化するという方針もあろう。実際の音声データから得られる情報・知見や、音声データとそれを聴き取った結果と比較することは、極めて有意義である。

この方針によるデータベースは既に完成・公開されている。国立情報学研究所の音声資源コンソーシアム (<http://research.nii.ac.jp/src/Tsuruoka91-92.html>) にて、本データベースに収める「共通語の調査」に加え、1992年に実施した「場面差調査」での録音データとセットで「鶴岡調査音声データベース 91-92 (Tsuruoka91-92)」が公開・配布されている。

(2) はデータベースに収めるデータの範囲に係る方針である。鶴岡調査のメイン・サーヴェイである「共通語の調査」では、音声・音韻、語彙、文法、方言と共通語の使い分け意識、被調査者の属性等を尋ねている。本データベースでは、第2回調査時点で共通語化が完了している項目が多い語彙項目と、ほぼすべての項目で変化が認められない文法項目を除く項目をデータベース化する。

(3) の方針は、(1) (2) から必然的に導かれる。すなわち、本データベースは、第1回～第3回調査の40年間における言語変化を捉えることを目的として整備するのであるから、そこに収める調査項目は、過去3回の調査のいずれでも設定された調査項目となる。

例えば、第1回調査では、鶴岡調査の古い特徴である「障子」のショーが [çʷo:] で発音されるか否かを尋ねる項目があった。しかしながら、第2回調査の準備調査の段階で、この特徴がほとんど見られない(=共通語で発音される)ことが確認されたため、第2回調査以降は採用していない。また、第2回・第3回調査では、それぞれの調査時にトピックとなっていた言語音(外来語の発音など)を追加している。

本データベースではそれらを収めず、過去3回の調査のいずれにおいても調査された項目(言語項目では単音に関する31項目、アクセントに関する3項目)を収録する。

(4) はデータ整理に係る方針である。

主要な調査項目である音声・音韻項目のうち、特に単音レベルの音価に焦点を当てた項目(31項目)は、中間的な音価が記録されることがある。

例えば、非語頭におけるタ行の有声化の有無を見る項目では、共通語の [t] と方言の [d] が選択肢として用意されているのであるが、調査員が半有声である旨を記録しているケースもある。

このような中間的な音の処理は、過去の報告書の中で、唯一、処理の基準が示されている第2回調査の報告書『地域社会の言語生活：鶴岡における20年前との比較』(国立国語研究所、1974) に従い、多少でも方言的要素があるものは、共通語とは別の音であると処理するという方針をとった。本データベースが、第3回調査の報告書『地域社会の言語生活：鶴岡における20年間隔3回の継続調査(国立国語研究所報告52)』(国立国語研究所、2007)の集計結果と数値が異なるのは、この方針を採用したことによる。

なお、本データベースが、第1回調査の報告書、第2回調査の報告書の集計結果と数値が異なる理由は、既に述べたように、本データベースが15～24歳を2倍していないことと、第2回調査の調査完了件数が異なることに加えて、次の(5)で示すように、第1回調査の年齢の言い表し方と現代のそれとが異なることによる。

(5) もデータ整備に係る方針である。

第1回～第3回調査の被調査者は、「15～69歳」を対象とした。しかし、第1回調査(1950年)当時は、年齢をいわゆる「数え年」で言い表すことが一般的であった。昭和24年5月24日公布、昭和25年1月1日施行の「年齢のとなえ方に関する法律」によって、年齢を数え年によって言い表す従来の慣わしを改め、満年齢で表すこととしたが、第一次調査時にあっても数え年によって年齢を言い表すことがまだ一般的であり、満年齢によるそれはあまり広まっていなかったのである。第1回調査の実査においても、年齢は「数え年」を採用している。

したがって、第1回調査の「15から69歳」は、満年齢では「14～68歳」となる。このとき、満年齢が「14歳」となる被調査者の扱いが問題となる。第2回・第3回調査では、「14歳」は調査対象外だからである。しかしながら、本データベースでは、これらの満14歳(数え年で15歳)も、有効計画サンプルとする方針をとる。

本データベースでは、第1回～第3回調査のデータを統一することとし、すべてを満年齢で整備した。

しかし、第1回調査の報告書では、無論、数え年によって年代を区別し、集計している。つまり、第1回報告書における「15～19歳」は満年齢では「14～18歳」であり、「20～29歳」は満年齢では「19～28歳」(以下、省略)なのである。前者は“10代”で良いとしても、後者の満年齢19歳の被調査者は、“20代”の構成員として計算されているわけである。本データベースでは、この点も改め、すべてを満年齢で集計し直した。このことによって、第1回調査の集計結

果とはズレが生じることを承知しつつも、第1回～第3回調査の結果が等質となって、データの比較が可能になることの利得を重視した。

## 5. 鶴岡調査の組織

最後に、第1回～第3回鶴岡調査の研究組織を掲載する。

### 第1回調査（1950年）

岩淵悦太郎，中村通夫，柴田武，林知己夫，飯豊毅一，北村甫，島崎稔，山之内るり，金田一春彦，青山博次郎，西平重喜，浅井恵倫，森岡健二，上甲幹一，岡部英子，山崎英子，田熊雅子，野元菊雄，山本尚美，安藤舎予子，寺島愛，友部浩，関善二

※昭和25年度文部省科学試験研究費補助金「地域社会の言語生活—鶴岡における実態調査—」の助成を受けた。

### 第2回調査（1971年）

岩淵悦太郎，野元菊雄，飯豊毅一，徳川宗賢，本堂寛，佐藤亮一，中村明，高田誠，江川清，村木新次郎，南不二男，渡辺友左，鈴木裕久，倉沢進，林知己夫，鈴木達三，林文，高橋和子，平野秀子，大高道子，時永沙代子，高田正治，井上史雄，上野善道，真田信治，小林信子，堀江よし子，日高貢一郎，田中ハル子

※昭和46年度文部省科学研究費試験研究費「社会変化と言語生活の変容」の助成を受けた。

### 第3回調査（1991年）

江川清，米田正人，杉戸清樹，熊谷康雄，相澤正夫，伊藤雅光，前川喜久雄，尾崎喜光，横山詔一，井上優，大西拓一郎，池田理恵子，白沢宏枝，辻野都喜江，塚田実知代，磯部よし子，米田純子，佐藤亮一，今石元久，井上史雄，高田誠，真田信治，鈴木敏昭，吉岡泰夫，沢木幹栄，加藤和夫，佐藤和之，金沢裕之，水野義道，新田哲夫，渋谷勝己，篠崎晃一，早野慎吾，堀司郎

※平成3～4年度文部科学省科学研究費補助金 総合研究（A）「地域社会の言語生活—鶴岡市における戦後の変化—」の助成を受けた。

## 第2部 コードブック

### 1. コードブックの構成

第2部「コードブック」では、鶴岡調査データベース ver.1.0に収録した、基礎項目（フェイスシート項目）、音声・音韻項目、言語生活項目（場面による使い分け意識）の順に、コード表を記す。

### 2. 基礎項目（フェイスシート項目）

被調査者 No.や性別や生年といったいわゆる基礎項目のコード表を掲げる。

#### 被調査者 No.

コード	内訳
01000～54104	第1回調査
010001～899101	第2回調査
001K～500K	第3回調査

被調査者 No.はサンプリングを終えた段階で与えるものである。したがって、調査完了となった被調査者 No.は連番にはならない。

第1回調査は数字5桁、第2回調査は数字6桁、第3回調査は数字3桁とアルファベット1文字（ランダムサンプリングは「継続」の「K」）である。

第1回調査では、被調査者 No.の数字の後にプライム（ダッシュ）が付いている被調査者がいる（52件）。これらの被調査者 No.は、調査票のままプライムを付けて入力している。

#### 調査回

コード	内訳
1	第1回調査
2	第2回調査
3	第3回調査

## 性別

コード	内訳
1	男
2	女

## 生年

コード
西暦(数字)

## 調査時の年齢

コード
年齢(数字)

「調査時の年齢」は、正確には「サンプリング時の年齢」である。

## 年代

コード	内訳
1	10代
2	20代
3	30代
4	40代
5	50代
6	60代

「調査時の年齢」を「10歳刻みの年代」データに数値化したものである。

## 言語形成地

コード
地域名(テキスト)

本データベースでは、第1回・第2回調査の考え方・データ整備の方針を踏襲し、言語形成期を5歳～13歳までと考えることにする（『地域社会の言語生活：鶴岡における実態調査（国立国語研究所報告5）』，国立国語研究所，1953，pp.79-80を参照）。

しかし、人は5歳～13歳までに一地域で生活を営むとは限らない。5歳～8歳までの4年間は東京に居住し、9歳～13歳までの5年間は鶴岡に居住するといったケースも考えられる。そこで、かつての鶴岡調査では、5歳～13歳までの9年間の半数以上（すなわち5年以上）を過ごした地域によって言語形成地を決定した。今回のデータ整備においても、その方針を引き継ぐ。

鶴岡市の場合は「鶴岡市」と入力し、鶴岡市を除く山形県内の地域名は「山形県〇〇市」のようにした。また、山形県以外の場合は、「東京都」や「広島県」のように都道府県名とした。

## 言語形成地コード

コード	内訳
1	鶴岡市
2	鶴岡市以外の山形県
3	山形県以外の都道府県
99	不明

「言語形成地」を数値化したものである。

## 言語形成期の鶴岡居住年数

コード	内訳
0	0年
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年
5	5年
6	6年
7	7年
8	8年
9	9年
99	不明

言語形成期のコード化には、外住歴の観点から整備する方法もある。つまり、言語形成期に鶴岡市に住んだ／住んでいない期間は何年間かをコード化するというものである。この方法は、かつての岡崎調査で用いられた。本データベースでも、この方法によるデータ記述も併せて行う。

5～13歳の間には鶴岡市に居住した期間（年数）を入力した。

### 言語形成期の山形県居住年数

コード	内訳
0	0年
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年
5	5年
6	6年
7	7年
8	8年
9	9年
99	不明

「言語形成期の鶴岡居住年数」と同様の理由により、5～13歳の間には鶴岡市を含む山形県に住んだ期間（年数）を入力した。

### 職業

コード	内訳
1	専門的・技術的職業従事者
2	管理的職業従事者
3	事務的従事者
4	販売従事者
5	サービス職業従事者
6	保安職業従事者
7	農林漁業従事者
8	運輸・通信従事者
9	生産工程・労務作業者
10	分類不能の職業
11	無職(主婦・学生を含む)
99	NR

職務内容を尋ねる質問項目とその集計方法は、3回の調査いずれにも独自性があり、質問の仕方や選択肢（分類枠）が一致しない。「職業」を取り巻くそれぞれの時代背景を反映しているた

めである。仮に質問の仕方や選択肢が統一されていたとしても、時代の変遷（産業の変化）によって、その職務自体が無くなったり、これまでにない新しい職務が発生することもある。経年調査にとって、経年的に、統一された分類でデータを比較するために、各調査の職務内容をどのように分類するかという分類のあり方が課題の1つとなる。

もう一つ課題がある。経年調査は、研究テーマが引き継がれることはもちろんのこと、コード分類・付与などといったデータ整理作業の詳細な情報も引き継がれなければならない。すなわち、後のデータ整理担当者が、同じデータに同じコードを付与できるような、明確で透明性のある「基準」が継承されなければならない。それが実現されなければ、調査が実施される度に過去のコードを解読する必要が出てくる。これが分類の追試可能性の確保という二つ目の課題である。今回のデータ整備ではこの二つの課題を解決するために、総務省統計局が制定した『日本標準職業分類』（平成9年12月改定）を利用することとする。職業分類には、前掲の他に、厚生労働省の『労働省編職業分類』（平成11年11月改訂）、国際労働機関（ILO）の『国際標準職業分類』、「社会階層と社会移動」全国調査（いわゆるSSM調査）の職業分類などがある。それらの中で『日本標準職業分類』を選んだのは、以下の理由による。

- (1) この分類が「統計調査の結果を正確で客観的に示す」ことを目的に作成されたものであり、社会調査型の調査である鶴岡調査の性格・目指すところと一致すること
- (2) 分類の基準が公開されており、追試可能性が保証されること
- (3) 産業の変化に伴って分類は改訂されるのであるが、かつての分類枠と新しい分類枠の対照表が明示され、コードの再付与が容易に可能であること
- (4) 職務を検索するためのWeb上のシステム（政府統計の総合窓口「e-Stat」）およびそれらをデータベース化したExcelファイルが利用できること

上記のうち、特に(2)(3)によって、前述の二つの課題を解決できると考える。

なお、データ整備に利用する『日本標準職業分類』は、平成9年12月改定（平成14年6月に一部改定）版に準拠する。

## 学歴

コード	内訳
1	なし
2	小
3	高小・新中
4	旧中・新高
5	旧高
6	専
7	大
8	その他
99	NR・不明

第1回・第2回調査では、卒業した学校、いわゆる「最終学歴」を「学歴」として扱い、共通語化と深い相関があることを明らかにした。このことから、このことから、本データベースにおいても、最終学歴を採用した。

### 父親の出身地

コード	内訳
1	鶴岡市
2	鶴岡市以外の山形県
3	山形県以外の都道府県
99	不明

### 母親の出身地

コード	内訳
1	鶴岡市
2	鶴岡市以外の山形県
3	山形県以外の都道府県
99	不明

### 配偶者の出身地

コード	内訳
1	鶴岡市
2	鶴岡市以外の山形県
3	山形県以外の都道府県
4	配偶者なし
99	不明

### 3. 音声・音韻項目

音声・音韻の36項目の回答データのコード表を掲げる。

各項目は、上表・下表の2表で構成される。上表は、第1回～第3回調査の各調査票での質問項目の情報（質問番号・選択肢）を比較できるように並べたものである。第1回調査と第2回調査・第3回調査では設問番号が異なるため、それぞれの調査における設問番号も付した。

下表は、鶴岡調査データベース ver1.0のコード表である。第1回～第3回調査の回答データを統一したコードでデータベース化しているため、コード表は一つだけとなる。

コード表は、基本的に「1」が共通語の音価ないしアクセント型である。

また、コード表の「7」「99」は固定の意味を持つ。「7」は「その他」, 「99」はNR（無回答）を指す。音声・音韻についての回答（音価, アクセントの型）が多く、1～6までに収まらない場合は、「7」を飛ばして「10」以降のコードを付している。

なお、本データベースの質問番号は、第2回調査・第3回調査のもので統一し、この番号順にコード表を記載する。

〔注〕『第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要 資料編：第1分冊「音声・音韻」編』（統計数理研究所・国立国語研究所，2014）では「NR」を欠損値として扱っている。その例を示す。第1回調査（1995年）の10歳代は50名であった。その50名が項目201「クチ：口」に対して回答した内訳は、「共通語」35名, 「共通語以外」14名, 「NR」1名であった。この場合、共通語で回答したパーセントは、35を49（つまり35+14）で割って100倍した71.4%になる。35を50で割って100倍した70%ではない。

#### 201. クチ（口；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	61		201		201	
調査票 選択肢	1	tʃ	1	tʃ	1	tʃ
	2	z	3	z	2	z
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	tʃ
2	z
3	tʃ+z
7	その他
99	NR

## 202. ヒゲ（髭；唇音性Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	34		202		202	
調査票 選択肢	1	xi	1	ç	1	ç
	2	Fçi	3	F	2	F
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	ç
2	F
3	ç+F
7	その他
99	NR

## 203. セナカ（背中；口蓋性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	40		203		203	
調査票 選択肢	1	se	1	s	1	s
	2	çe	3	ṣ, ç	2	ṣ, ç
	3	その他	9	その他	9	その他

※子音の上に付した白丸は、調査票では黒丸（over dot）である。1973年に廃止された IPA の補助記号であるため、便宜的に白丸（over circle）を代用して表記している。

コード	内訳
1	s
2	ṣ, ç
7	その他
99	NR

203a. セナカ（背中；アクセント）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	40		203		203	
調査票 選択肢	1	LHH	1	LHH	1	LHH
	2	LHL	3	LHL	2	LHL
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	LHH
2	LHL
3	LLL
4	HLL
5	HHL
6	LLH
7	その他
99	NR

204. アセ（汗；口蓋性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	41		204		204	
調査票 選択肢	1	ase	1	s	1	s
	2	açe	3	ṣ, ç	2	ṣ, ç
	3	その他	9	その他	9	その他

※子音の上に付した白丸は、調査票では黒丸（over dot）である。1973年に廃止された IPA の補助記号であるため、便宜的に白丸（over circle）を代用して表記している。

コード	内訳
1	s
2	ṣ, ç
7	その他
99	NR

205. ハ<sub>フ</sub>（蜂；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	60		205		205	
調査票 選択肢	1	tʃ	1	tʃ	1	tʃ
	2	z	3	z	2	z
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	tʃ
2	z
7	その他
99	NR

206. ハ<sub>ト</sub>（鳩；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	59		206		206	
調査票 選択肢	1	t	1	t	1	t
	2	d	3	d	2	d
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	t
2	d
7	その他
99	NR

207. ネコ（猫；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	57		207		207	
調査票 選択肢	1	k	1	k	1	k
	2	g	3	g	2	g
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	k
2	g
7	その他
99	NR

207a. ネコ（猫；アクセント）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	57		207		207	
調査票 選択肢	1	HL	1	HL	1	HL
	2	LH	3	LH	2	LH
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	HL
2	LH
3	LL
7	その他
99	NR

208. ヘビ（蛇；唇音性Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	35		208		208	
調査票 選択肢	1	he	1	x	1	x
	2	Fçe	3	F	2	F
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	x
2	F
7	その他
99	NR

209. マド（窓；鼻音性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	37		209		209	
調査票 選択肢	1	d	1	d	1	d
	2	ḍ	3	~d	2	~d
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	d
2	~d
7	その他
99	NR

## 210. ハタ（旗；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	58		210		210	
調査票 選択肢	1	t	1	t	1	t
	2	d	3	d	2	d
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	t
2	d
7	その他
99	NR

## 210a. ハタ（旗；アクセント）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	58		210		210	
調査票 選択肢	1	LH	1	LH	1	LH
	2	LL(HL)	3	LL(HL)	2	LL(LH)
	3	その他	9	その他	9	その他

※第3回調査の「LL (LH)」は調査票のまま。「LL (HL)」だと思われる。

コード	内訳
1	LH
2	LL
3	HL
7	その他
10	複数回答
99	NR

## 211. スズ（鈴；鼻音性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	38		211		211	
調査票 選択肢	1	z	1	dz	1	dz
	2	~z	3	~z	2	~z
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	dz
2	~z
7	その他
99	NR

## 212. オビ（帯；鼻音性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	39		212		212	
調査票 選択肢	1	b	1	b	1	b
	2	̃b	3	~b	2	~b
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	b
2	̃b
7	その他
99	NR

213. クツ（靴；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	62		213		213	
調査票 選択肢	1	ts	1	ts	1	ts
	2	z	3	z	2	z
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	ts
2	z
3	tsi
7	その他
99	NR

214. カキ（柿；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	56		214		214	
調査票 選択肢	1	k	1	k	1	k
	2	g	3	g	2	g
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	k
2	g
7	その他
99	NR

215. マツ（松；有声性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	63		215		215	
調査票 選択肢	1	ts	1	ts	1	ts
	2	z	3	z	2	z
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	ts
2	z
7	その他
99	NR

216. スイカ（西瓜；唇音性 I）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	64		216		216	
調査票 選択肢	1	ka	1	k	1	k
	2	gwa	3	gw,kw	2	g <sup>w</sup> ,k <sup>w</sup>
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	k
2	g <sup>w</sup> ,k <sup>w</sup>
3	g
7	その他
99	NR

217. カヨウビ（火曜日；唇音性Ⅰ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	65		217		217	
調査票 選択肢	1	ka	1	k	1	k
	2	kwa	3	kw	2	k <sup>w</sup>
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	k
2	k <sup>w</sup>
7	その他
99	NR

218. ヒャク（百；唇音性Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	36		218		218	
調査票 選択肢	1	xa	1	ç	1	ç
	2	Fçja	3	F	2	F
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	x
2	F
7	その他
99	NR

## 219. ゼイムシヨ（税務署；口蓋性）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	43		219		219	
調査票 選択肢	1	dze:	1	dz	1	dz
	2	že:	3	ž	2	ž
	3	その他	9	その他	9	その他

※子音の上に付した白丸は、調査票では黒丸（over dot）である。1973年に廃止されたIPAの補助記号であるため、便宜的に白丸（over circle）を代用して表記している。

コード	内訳
1	dz
2	ž
7	その他
99	NR

## 220. イキ（息；イとエⅡ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	44		220		220	
調査票 選択肢	1	i	1	i	1	i
	2	i	7	i	3	i
	-	-	3	ë	2	ë
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	i
2	i
3	ë
7	その他
99	NR

## 221. エキ（駅；イとエⅠ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	45		221		221	
調査票 選択肢	1	e	1	e	1	e
	2	i	7	i	3	i
	-	-	3	ẽ	2	ẽ
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	e
2	i
3	ẽ
7	その他
99	NR

## 222. イト（糸；イとエⅡ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	46		222		222	
調査票 選択肢	1	e	1	i	1	i
	2	i	7	i	3	i
	-	-	3	ẽ	2	ẽ
	3	その他	9	その他	9	その他

※第1回調査の「e」は調査票のまま。表記ミスと思われる。

コード	内訳
1	e
2	i
3	ẽ
7	その他
99	NR

223. エントツ（煙突；イとエ I）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査	
設問番号	47		223		223	
調査票 選択肢	1	e	1	e	1	e
	2	i	7	i	3	i
	-	-	3	ẽ	2	ẽ
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	e
2	i
3	ẽ
7	その他
99	NR

224. チヅ（知事；中舌音 II）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査	
設問番号	48		224		224	
調査票 選択肢	1	tʃidʒi	1	i	1	i
	2	ʒi	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	i
2	i
7	その他
99	NR

225. チズ（地図；中舌音Ⅰ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	49		225		225	
調査票 選択肢	1	dzüü	1	u	1	u
	2	zi	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	u
2	i
3	u+i
7	その他
99	NR

226. シマ（島；中舌音Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	50		226		226	
調査票 選択肢	1	ʃi	1	i	1	i
	2	si	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	i
2	i
7	その他
99	NR

## 227. スミ（墨；中舌音 I）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査	
設問番号	51		227		227	
調査票 選択肢	1	stü	1	u	1	u
	2	si	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

※第 1 回調査の「ü」は調査票のまま。記入ミスだと思われる。

コード	内訳
1	u
2	i
7	その他
99	NR

## 228. カラス（烏；中舌音 I）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査	
設問番号	52		228		228	
調査票 選択肢	1	stü	1	u	1	u
	2	si	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

※第 1 回調査の「ü」は調査票のまま。記入ミスだと思われる。

コード	内訳
1	u
2	i
7	その他
99	NR

228a. カラス（鳥；アクセント）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	52		228		228	
調査票 選択肢	1	HLL	1	HLL	1	HLL
	2	LHL	3	LHL	2	LHL
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	HLL
2	LHL
3	LLL
4	LHH
5	HHL
6	LLH
7	その他
10	複数回答
99	NR

229. カラシ（辛子；中舌音Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	53		229		229	
調査票 選択肢	1	karaji	1	i	1	i
	2	si	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	i
2	i
3	üi
7	その他
99	NR

### 230. キツネ（狐；中舌音Ⅰ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	54		230		230	
調査票 選択肢	1	tɕi	1	ɯ	1	ɯ
	2	zi	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

※第1回調査のウムラウト付きの「i」は「i」を代用して表記。

コード	内訳
1	ɯ
2	i
7	その他
99	NR

### 231. ウチワ（団扇；中舌音Ⅱ）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	55		231		231	
調査票 選択肢	1	tɕi	1	i	1	i
	2	zi	3	i	2	i
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	i
2	i
3	ɯ
4	ɯ
7	その他
99	NR

231a. ウチワ（団扇；アクセント）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	55		231		231	
調査票 選択肢	1	LHL	1	LHL	1	LHL
	2	LLH(LLL)	3	LLH	2	LLH
	3	その他	9	その他	9	その他

コード	内訳
1	LHL
2	LLH
3	LLL
4	LHH
5	HLL
6	HHL
7	その他
10	複数回答
99	NR

## 4. 言語生活項目（場面による使い分け意識）

場面による使い分け意識に関する言語生活項目も、音声・音韻項目と同様に、第1回～第3回調査の各調査票での質問項目の情報と、鶴岡調査データベース ver1.0のコード表を掲げる。

### C1. 家の中のことば

#### 【質問文】

お家で家族の方たちといろいろお話をなさる時のことばは鶴岡弁ですか。それとも標準語ですか。いろいろ混ざりますか。

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	22		309		410	
調査票 選択肢	1	標準語	1	標	1	標準語
	3	方言	2	方	2	方言
	2	まざる	3	混	3	混ざる
	-		0	N.A.	-	N.A.

コード	内訳
1	標準語
2	方言
3	混ざる
4	家族なし
5	使い分ける
99	NR

- 「標準語8割、方言2割」などのようなコメントをしたうえで「標準語」に丸が付けられているケースもある。回答データベースでは、多少でも混ざる場合は「3」とした。
- 「家族がない」というケースが多いため、NRとは別にコードを与えた。
- 「相手によって標準語と方言を使い分ける」といったコメント（調査員が記したもの）が多いため、コードを与えた。ただし、使い分けのコードは標準語（共通語）と方言の使い分けだけに与え、「鶴岡弁と三川弁を使い分ける」といったものは対象外とした。後者のような場合は、どちらの変種にせよ方言を使用しているわけだから、「2」を与える。

## C2. 近所の顔見知りとのことば

### 【質問文】

近所の顔見知りの方とお話なさる時は？

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	23		309		410	
調査票 選択肢	1	標準語	1	標	1	標準語
	3	方言	2	方	2	方言
	2	まざる	3	混	3	混ざる
	-		0	N.A.	-	N.A.

コード	内訳
1	標準語
2	方言
3	混ざる
5	使い分ける
99	NR

- 「標準語8割，方言2割」などのようなコメントをしたうえで「標準語」に丸が付けられているケースもある。回答データベースでは，多少でも混ざる場合は「3」とした。
- 「相手によって標準語と方言を使い分ける」といったコメント（調査員が記したもの）が多いため，コードを与えた。ただし，使い分けのコードは標準語（共通語）と方言の使い分けだけに与え，「鶴岡弁と三川弁を使い分ける」といったものは対象外とした。後者のような場合は，どちらの変種にせよ方言を使用しているわけだから，「2」を与える。

### C3. 鶴岡で顔見知りでない人とのことば

#### 【質問文】

鶴岡の人で顔見知りでない方もおありでしょうが、そういう人とお話をなさる時は？

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	23		309		410	
調査票 選択肢	1	標準語	1	標	1	標準語
	3	方言	2	方	2	方言
	2	まざる	3	混	3	混ざる
	-		0	N.A.	-	N.A.

コード	内訳
1	標準語
2	方言
3	混ざる
5	使い分ける
99	NR

- 「標準語8割、方言2割」などのようなコメントをしたうえで「標準語」に丸が付けられているケースもある。回答データベースでは、多少でも混ざる場合は「3」とした。
- 「相手によって標準語と方言を使い分ける」といったコメント（調査員が記したもの）が多いため、コードを与えた。ただし、使い分けのコードは標準語（共通語）と方言の使い分けだけに与え、「鶴岡弁と三川弁を使い分ける」といったものは対象外とした。後者のような場合は、どちらの変種にせよ方言を使用しているわけだから、「2」を与える。

## C4. 旅の人とのことば

### 【質問文】

旅の人などにお話なさる時は？

	第1回調査		第2回調査		第3回調査	
設問番号	23		309		410	
調査票 選択肢	1	標準語	1	標	1	標準語
	3	方言	2	方	2	方言
	2	まざる	3	混	3	混ざる
	-		0	N.A.	-	N.A.

コード	内訳
1	標準語
2	方言
3	混ざる
5	使い分ける
99	NR

- 「標準語8割、方言2割」などのようなコメントをしたうえで「標準語」に丸が付けられているケースもある。回答データベースでは、多少でも混ざる場合は「3」とした。
- 「相手によって標準語と方言を使い分ける」といったコメント（調査員が記したもの）が多いため、コードを与えた。ただし、使い分けのコードは標準語（共通語）と方言の使い分けだけに与え、「鶴岡弁と三川弁を使い分ける」といったものは対象外とした。後者のような場合は、どちらの変種にせよ方言を使用しているわけだから、「2」を与える。

鶴岡調査データベース解説 ver.1.0

2017年4月26日

国立国語研究所